

# 996. locally bicompactly bounded ト空間 = ツイテ (II)

寺 阪 英 孝 (阪大)

## §5. 空間ノ積ト和

( $K^n$ ) 及ビ ( $LK^n$ ) ノ實例ヲアゲルツモリト約束シテ  
置キマシタガ、証明ガウマク行カナイノデ、取敢ヘズ問題ニ  
シテオキマス。コノ外ニモ成ルタケ具体的ト問題ヲ先ツ出シ  
テオキマスカラ智慧ヲオ増シ下サイ。

サテ §3 ノ例ヲ一般ニシテ

**問2**  $\{r\}$  ノ有理數  $r$  ノ全体又ハ  $r = \frac{1}{n}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) ノ全体トスル。サウスルト座標  $(x_1, x_2, \dots, x_n)$  ナル Euclid 空間  $R^n$  カラ  $x_i = r, r \in \{r\}$  ナル超平面ヲ除イタ残ハ ( $K^n$ ) 空間デアアル。

**問3** Euclid 空間  $R^n$  カラ半超平面  $x_n = 0, x_i > 0$  ノ除イタ残ハ ( $LK^n$ ) 空間デアアル。

イヅレモ  $R^n$  ノ部分空間故、定理2ニヨツテ、少クモ ( $K^n$ ) 及ビ ( $LK^n$ ) ノ云ヘバヨイノデアアル。モウシ欲ヲ出シテ

**問4**  $R^n$  ノ部分空間デ ( $K^m$ ) 又ハ ( $LK^m$ ) ナルモノノ特性如何。

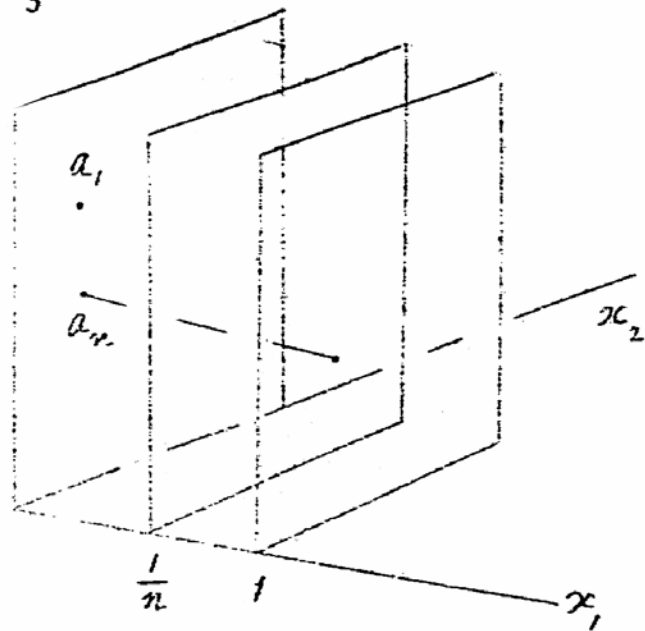
ヲ決定シタラ尚イイ訳デアアルガ、コレニツイテハ次ノ例ヲ参考ニ候シマス。

**例5**  $R^3$  カラ  $x_i = \frac{1}{n}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) ナル平

面ヲ除ケバ  $(K^3) =$

$x_3$

ナルガ、モシ更ニ  
 $(x_2, x_3)$  平面内、  
 凡テ、有理点  $\{a_n\}$   
 カラ  $x_1$  軸ノ正ノ方向  
 ニ平行ニヒイタ直線  
 ヲ除ケバ、 $(K^2)$  が得  
 ラレル。



即チ局部連結性

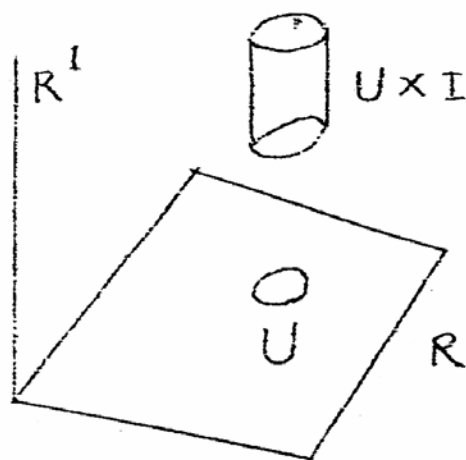
トドが大イニ関係シテ来ル。

モ一ツ問 2 ニツイテ考ヘラレルノ、ハ前ニモ一ツ述  
 べタ。

**問 5**  $(K^n)$  空間ト直線  $R^1$  トノ積空間ハ  $(K^{n+1})$  デ  
 ハナカラウカ。

ト云フノデアアルガ、コレヲ素朴ナ方針デ証明シヨウトス  
 ルト先ヅ次ノヌウナコトガ考ヘラレル。即チ  $R^1$  興ヘラレタ  
 $(K^n)$  空間トシ、 $U$  ヲソノ近傍、

$I$  ヲ  $R^1$  ノ interval トシ、  
 $R \times R^1$  ノ近傍トシテ  $U \times I$  ヲ  
 トレバ、 $R \times R^1$  ガ  $(K^{n+1})$  ナ  
 ルコトヲ云フニハ、 $U \times I$  ノ境  
 界ガ  $(K^n)$  ナルモノガ任意ニ



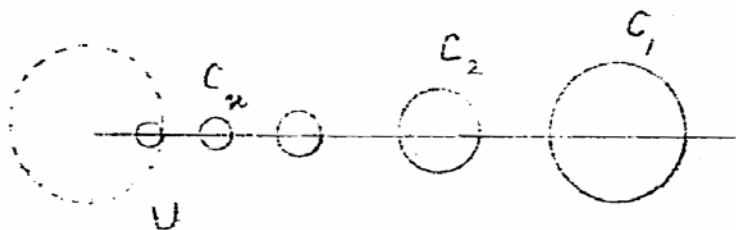
小サクトレルコトヲ示セバヨイ。ナラ定理ガ  $n-1$  マデハ成  
 立シテキルモノト假定シ、 $U$  トシテ  $\dot{U}$  ガ  $(K^{n-1})$  ナルモノ

ヲ考へレバ、 $\dot{U} \times I$  ハコノ假定 = コリ ( $K^n$ )、従ッテ  
 $\dot{U} \times I$  ノ境界ハ閉ゲタ ( $K^n$ ) ノ和 (即チ  $\dot{U} \times I$  ト  $\bar{U} =$  個  
ノ和) = ナルカラ、モシ [ 閉ゲタ ( $K^n$ ) 空間\* ノ和ハ夫張  
リ ( $K^n$ ) 空間デアアル ] コトガ正シケレバ、ヨイ訳デアアル。所  
以案ハコレガ成立タ+イノデアッテ決ノ實例ガアル。

**参考定理 I** ニツノ閉ゲタ ( $\dot{K}$ ) 空間\* デ和ガ ( $LK$ )  
ノルモノガ存在スル。

何着、先ヅ ( $LK$ ) 空間トシテ例々、即チ平面カラ  $x$  軸  
ノ正部分ヲ除イタ残  $R$  ヲトル。コレヲニツノ閉ゲタ ( $\dot{K}$ )  
空間 = 分ツタメ、 $x$  軸ノ正部分 = 中心ヲモチ、原点 = 収斂  
スル互 = 素ノ円盤

$C_1, C_2, \dots$  モ考  
へル。



ソウスルト

$$R \cdot \overline{\sum C_n} = A$$

ハ原点ヲ含ミ、ココデハ ( $\dot{K}$ )、他ノ  $A$  点デハ ( $LK$ ) ヲリ  
テ  $A$  ハ ( $\dot{K}$ ) 空間デアアル。又

$$R - \sum C_n = B$$

ハ矢張ハ原点以外デハ ( $LK$ )、原点デハ因ノ如キ近傍  $U$   
ヲトレバ  $\dot{U}$  ハ ( $K$ ) + 故、 $B$  ハ ( $\dot{K}$ ) デアル。

即チ  $R = A + B$

ノ如ク ( $LK$ ) ガニツノ閉ゲタ ( $K$ ) = 分タレタ。

大開ゲタ空間云々ト云フハ、和空間ノ中デ開カヲキルトイフ意  
味。

この例 = ヨツテ加法定理が成立シナイコトが分ツタ、従  
ツテ積定理モ素朴+方法ヲハ証明ガムツカシイコトニナラ  
フ。

サテ参考定理カラ思付クコトハ

**定理4** 開チタ  $(K^n)$  = 開チタ  $(K)$  ヲ加ヘレバ高  
々  $(K^{n+1})$  = ナル。

コレハ容易デアツテ、 $(K^n)$  空間ヲ  $A$ 、 $(K)$  空間ヲ  $B$   
トスレバ、 $A+B$  = 合マレル点  $\alpha$  ガ  $A+B$  内デ高々  $(K^{n+1})$  ヲ  
云ヘバヨロシイ。先ツ  $\alpha \in B$  故、 $\cup \exists \alpha$  ヲ適當ニトツテ  $\dot{U}B$   
ガ  $(K)$  ノヨツ = 出来ル。ユノ  $U$  = ツイテ  $\dot{U} \cdot A$  ヲ考ヘルト、  
コレハ閉集合故定理3 = ヨツテ高々  $(K^n)$  デアル。従  
ツテ

$$\dot{U} = \dot{U}A + \dot{U}B$$

ハ高々  $(K^n)$  + 開チタ空間ト  $(K)$  トノ和 = ナル故

**定理5** 開チタ  $(K^n)$  スハ  $(LK^n)$  ト  $(K)$  トノ  
和ハ夫々  $(K^n)$  スハ  $(LK^n)$  デアル。

コト = 注意スレバ  $\dot{U}$  ハ高々  $(K^n)$  デアリ、従ツテ  $\alpha$   
ハ  $A+B$  = 於テ高々  $(K^{n+1})$  デアル。

コト = 定理5ハ帰納法 = ヨツテ簡單 = 証明出来ル但  
シ開チタキルコトハ必要ナラ、例ヘバ直線  $R'$  カラ  $x = \frac{1}{n}$   
( $n = 1, 2, \dots$ ) 及ビ原点ヲ除イタ空間ハ  $(LK)$  然ル =  
コレ = 原点 (即チ  $(K)$ ) = ツテ加ヘレバ  $(K) =$  ナツテ了  
フ。

所デ定理4ハモ少シヨクナリハンマイカ。即チ

**問6** 開集合  $(K^n) =$  開集合  $(K)$  に加へれば高々  $(LK^n) =$  ナルノデハアルマイカ。開集合  $(LK^n) =$  開集合  $(K)$  に加へても矢張り  $(LK^n)$  デハアルマイカ。一般  $= (LK^n) =$  閉集合に加法定理が成立ツノデハアルマイカ。

ナド考へラレル。

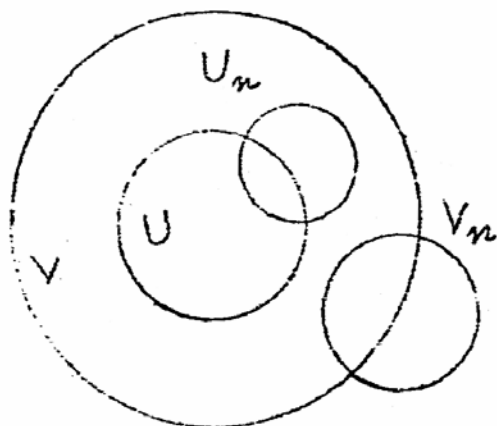
コソナニ想像許シテキテ証明ヲ実行シナイノモ氣がヒケマスノデ、次ノ小サナ定理ヲ証明シテミマス。

**定理6** 正則可分ナ  $(K)$  又ハ  $(LK)$  空間ハ一点ヲ附加スレコトニヨツテ高々  $(LK) =$  ナル。

コレハ次ノ定理カラ導ケル。

**定理7** 正則可分ナ高々  $(LK)$  ナ空間内ノ任意ノ  $U \in V$  ( $U \subset V$  ノコト) ナル開集合  $U, V =$  対シ、 $U \subset U^* \subset V$  デアツテ且ツ  $U^*$  が高々  $(LK)$  ナル開集合  $U^*$  が存在スル。

(證) 考へテキル空間ヲ  $R$  トスル。  $R$  ハ高々  $(LK)$  故、各点  $x \in R =$  ハ境界  $\dot{U}(x)$  が高々  $(LK)$  ナル任意ニ小ナ近傍  $U(x)$  が存在スル可分ノ



擬定カラ、カナルモノ可附番個ヲ空間  $R$  ノ基本近傍系ニトルコトが出来る。ヨツテソノ中、  $U$  ト交ハリ且ツ  $\in V$  ナルモノヲ  $U_1, U_2, \dots$  トシ、又  $U$  ト全ク離レテキルモノ (開着同志モ素ナルモノ) ヲ  $V_1, V_2, \dots$  トシテ

